

第3学年2組 道徳指導案

- 1 主題名 相手を思いやることの美しさ〔内容項目B－(6)：思いやり、感謝〕 (1時間完了)
〈資料名 「賢者の贈り物」 出典：私たちの道徳(文部科学省)〉

2 ねらい

クリスマスを相手と幸せに過ごしたいという思いから、自分の大切なものを失ってでも相手のために贈り物を買った主人公二人の行動と、その気持ちを考えることを通して、人を思いやり、人のために行動することが尊いものであることに気づき、相手を思いやる行動を取りながら、人生を歩んでいきたいという道徳的心情を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

相手を思いやることは大切。それは皆知っている。中学生3年生は、義務教育最終学年でもあり、相手を思いやることの大切さは十分に学んできている。しかし、日常生活の中で相手を思いやる行動をとることが必ずしもよい結果につながるとは限らない。だが、相手を思いやる行動がうまくいかなくても、その思いやる心は美しく、お互いが幸せな気持ちになっていける。それを知ることは、学校生活を気持ちよく生活していくためにも、そして生徒たちが社会に出て、自分の人生を生きていくためにも、大切なことである。資料における二人の気持ちを考えることを通して、結果にとらわれず、相手を思いやって行動しようという道徳的な心情を高めたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級の生徒は、落ち着いており、学校のきまりを守って生活している。意欲や行動力に差はあるが、どの生徒も学級をよくしたいと考えている。一方で、自分の損得を考えるあまり、相手のためにと考えて行動することは苦手な生徒が多い。例えば、給食で残菜が出た際、級友が残菜をなくすよう呼びかけても、自分はこれ以上は無理と、級友の呼びかけに応じて協力しようと動くことができない生徒が多くいる。多くの生徒は、自分自身に意識を向けることはできるのだが、自分が苦勞してでも相手の立場に立って考え、行動することを苦手としていると感じる。本時の授業を通して、結果は良い方向にいかなくても、相手を思って行動に移したことが、相手を幸せにできることに気づかせたい。また自分の損得だけでなく、好きな異性や家族、身近にいる級友などに対し、相手のことを考えた行動をしていこうとする気持ちを育てたい。

(2) 抽出生徒について

①抽出生徒Aについて

抽出生徒Aは、普段はおとなしく、あまり自分から発言をする方ではないが、自分の考えをしっかりとっており、ワークシート等へ自分の思いを記入することができる。また、部活動の大会に向けて緊張している級友を励ますなど、仲間へのさりげない心遣い、優しさを感じさせる行動をとることができる。本時において、Aを意図的に指名し、Aのもつ優しさを全体に広げること、相手への思いやりの精神の美しさを全体で共有するきっかけとしたい。また、この授業を通して、Aのもつ優しさが認められることで、さらに他者に対して思いやりをもって生活していこうとする意欲を育てたい。

②抽出生徒Bについて

抽出生徒Bは、物事を理論的に考えるタイプであると考えている。普段から自分の考えを積極的に全体に広げることができる。本時においては、主人公二人の行動を批判的にとらえるであろう。そこで、中心発問の後、Bの考えを取り上げて全体に広げること、思いをもって行動することだけが全てではないことも全体で共有したい。そして、批判側の生徒の考えを支えるきっかけとしたい。また、弁護側の意見を出させた後で、Bにどう思うかを問い返すことで、Bが相手を思いやる行動の価値に気づき、新しい考え方を得るきっかけとしたい。

5 資料について

(1) 資料の概要

本資料は、米国の小説家O・ヘンリーの代表作の一つである。あるクリスマスの前日、貧しい夫婦が、自分が一番大事にしているものを手放して相手のために贈り物をしようと考えた。そして、夫は家に代々受け継がれている金の時計を、妻は美しい長い髪を売って相手への贈り物を手に入れた。贈り物は、それぞれが売った物に使うものであり、役に立たない物になってしまったが、心に届く贈り物であったという有名な物語である。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

本時では、資料の場面把握がしやすいように、T1、T2で役割を分けて範読する。そのうえで、登場人物の置かれた状況や二人が贈りあった物などを確認し、資料の内容をしっかりと理解させることで、その後の「二人の行動をどう思うか」という中心発問に対し、批判側か弁護側か自分の考えを明確にもたせることができるようにする。

また、ワークシートに自分の考えを記入する時間を確保し、教師の机間指導で生徒の考えを認め、個別に支援をすることで、資料と向き合い、自分の考えを明確にもって、話し合いに積極的に参加できるようにする。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

本時の中心発問について話し合う場で、生徒の意見が弁護側に偏った場合、抽出生徒Bの意見を取り上げ、意図的に認めることで、主人公二人の行動は結果が伴っていないことを全体で共有する。また、批判側に偏った場合、抽出生徒Aの考えを意図的に認めることで、結果が全てではなく、相手を思いやる行動こそが美しく、相手にとってすばらしい贈り物となったことを全体で共有する。T1が批判側、T2が弁護側の生徒の意見を支え、反対側の意見の生徒に対して「お金がないのに、これからの生活はどうするか」「でも、相手を思ってプレゼントすることってそんなにだめなことなのか」などの切り返しの発問をすることで、それぞれの立場の生徒の考えをゆさぶる。T1、T2がそれぞれの立場に分かれて話し合うことで、生徒の考えに自信をもたせるとともに、それぞれの考えの深化ができるようにする。

その後、「二人は幸せなクリスマスが送れたかどうか」を考えることにより、お互いの行動が相手を幸せにできていたことを確認し、話し合いを焦点化していく。さらにその後の二人がかけ合った言葉を考えさせることで、相手を思う気持ちの大切さに気づかせ、本時のねらいに迫る。

6 板書計画

賢者の贈り物

- デラ 夫婦 プラチナのチェーン
- ジム 貧しい 高価な櫛

問一
二人の行動をどう思いますか。

弁護

- 相手を思う気持ちは美しい
- クリスマスは特別な日
- 相手を思う気持ち
- 結果を伴わなくても愛する気持ちがあれば

批判

- 結果が伴っていない
- 生活を苦しくしてまで
- 生活が豊かになることが優先ではないか
- どちらも使えない

問二
この後二人はどんな言葉をかけあったらうか。

ジム

「本当の幸せ」って・・・

お話し合ったらよかったね。

- ・ありがとう。結果はうまくいかなかったよ。幸せだよ。
- ・お互い大切な物はなくなっただけで、デラの思いがうれしかったな。

デラ

- ・これから気をつけるね。
- ・私も幸せだと思ったよ。うれしい。
- ・同じように今日を大切に思っていてくれたことがうれしい。

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5	<p>だれかのために贈り物をしたことがあるか。</p> <p>母の日にプレゼントしたよ。 友達に誕生日プレゼントしたよ。 相手が喜んでくれることを期待してあげた。</p> <p>○資料の範読を聞く。</p> <p>二人の行動をどう思うか。</p> <p>○相互指名で話し合う。</p> <p>〈批判〉 賢くない。相手を思うだけでなく冷静な状況判断が必要だ。(①)</p> <p>その後の生活を苦しくしてまで贈る必要ない。</p> <p>もう少し相談をして、お互いに了承を得てから購入する方が幸せになれる。(③)</p> <p>生活が苦しくなるならそれは幸せではないのではないか。</p> <p>結局どちらも使えないので無駄だ。お互いのためにならなかった。</p> <p>〈弁護〉 相手のことを真剣に考えた結果なので、その行動は美しい。(②)</p> <p>クリスマスは特別な日だから、お互いに贈り合いたかったはず。</p> <p>クリスマスは年に1回きり。キリスト教の人にとってクリスマスは大切なもの。</p> <p>苦しいからこそ、相手に喜んでほしいと思う気持ちは美しい。</p> <p>結果は伴わなかったが、相手のために考えた行動なのでよい。</p>	<p>※プレゼントをあげる際の心情を想定することで資料への関心を高める。</p> <p>※登場人物を確認することで資料の共通理解を図る。</p> <p>※自分の立場を明確にし、自分の考えをもたせるため、批判と弁護の二つの立場に分けて考えさせる。</p> <p>※T1、T2がそれぞれの側(T1:批判、T2:弁護)につき、生徒の考えを支える。</p> <p>※弁護側に偏った場合、抽出生徒Bの意見を取り上げることで、二人の行動の結果はよいものではなかったことを確認する。(①B:生かす)</p> <p>※批判側に偏った場合、抽出生徒Aを意図的に指名し、相手を思う気持ちを発表させることで、相手を思う気持ちの美しさを全体で共有し、批判側の生徒の考えをゆさぶる。(②E:ゆさぶる)</p> <p>※方法論に話が及んだ場合、主発問に立ち返らせ、その行動がどうかを考えるよう軌道修正する。(③D:断ち切る)</p> <p>※批判側に偏った場合、「二人がその年のクリスマスを幸せに過ごせたか」と問いかけることで、批判側の考えをゆさぶる。(E:ゆさぶる)</p> <p>☆資料から、二人の行動の是非を考えることができたか。(発言・ワークシート)</p>
30	<p>このあと二人はどんな言葉をかけ合っただろうか。</p> <p>ジム: お互いに話し合ったらよかったね。 デラ: これから気をつけるね。</p> <p>ジム: 大切にすね。 デラ: 私も大切にします。</p>	<p>※主人公二人がかけ合った言葉を予想し考えることで、互いを思い合う行動の美しさに気づくようにする。</p>

<p>ジム：お互いに意味のないことになっちゃったね。 デラ：もう少し考えて行動したらよかったな。</p>	<p>ジム：なんてことだ。でも今年のクリスマスは特別なものになったよ。 デラ：幸せな気持ちになりました。</p>	<p>※生徒が考えた言葉を全体に広げて認めつつ、お互いに相手を思い合って行動したことをおさえる。</p>
<p>ジム：お互い物はなくなっちゃったけど、デラの思いがうれしいな。 デラ：同じように今日を大切に思っていてくれたことがうれしい。</p>	<p>ジム：金の時計を買い戻せるような男になるからね！ デラ：髪はまた生えてくるよ。櫛を使えるようまた髪をきれいにするね。</p>	<p>※お互いを認め合わない意見が出た場合、その考えを認めつつ、資料の最終部分と「この二人はクリスマスに幸せに過ごせたか」という問いかけに立ち戻り、考えさせる。</p>
<p>40 ○振り返りをする。</p>	<p>最初は、二人は愚かだと思っていたけど、みんなの意見を聞いてみて、結果はうまくいかなかったでも幸せだと感じたなら、それもいいかと思った。</p> <p>なんか心が温かくなった。お互いに思い合っていれば、幸せはやってくるんだと思えた。これから相手のことを考えた行動をとって、幸せになりたい。(④)</p>	<p>※振り返りを書く前に「この二人は幸せだったか、幸せとは何か」を全体に問いかけることで、振り返りの視点となるようにする。</p> <p>※④のような振り返りをしている生徒を全体の場で発表させることで、思いや考えを全体で共有できるようにする。(④B:生かす)</p>
<p>45 ○教師の説話を聞く。</p>	<p>我が家において、ジムとデラのように行動することは難しいかもしれない。でも相手を思う気持ちはずっともっているし、これからも大切にしていきたいと思っている。相手を思いやる気持ちは、物以上に大切なことなんだね。という話をする中で、温かい雰囲気ですべてを締めくくる。</p>	<p>※温かな雰囲気で終われるように、教師の経験談を話す。</p>
<p>二人の行動を通して、相手を思いやって行動することの美しさを感じ、自分の大切な人を思いやる心をもって人生を歩んでいこうとする姿。</p>	<p>☆大切なものを失ってでも、相手に贈り物を買った主人公二人の行動や気持ちを考える活動から、人を思いやり、人のために行動することが尊いものであることに気づくことができたか。 (発言、ワークシート)</p>	

授業の視点

- ① 「主人公二人の行動をどう思うか」について、批判側、弁護側に分かれて話し合う活動は、人のために行動することの尊さに気づき、相手を思いやって行動していこうとする道徳的心情を育てるうえで有効であったか。
- ② T1、T2がそれぞれ批判側、弁護側の考えを支援、それぞれにゆさぶりをかけることは、生徒の考えを深めさせる上で、適切であったか。また、主人公二人がその後かけ合った言葉を想像させることは、生徒が思いやりをもって生活することの美しさを学ぶうえで有効であったか。